

**荒川流域エコネット地域づくり推進協議会**  
**令和4年度 第2回 荒川流域エリア・ワーキング**

**議 事 要 旨**

■ 日 時：令和5年 1月18日（金）14:00～16:00

---

■ 場 所：荒川上流河川事務所 会議室・Web会議（Zoom）形式併用

---

■ 議事要旨

---

1. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の進捗について

- ・これまでの活動経緯や会議での意見を確認し、令和4年度 協議会活動結果の報告を行った。

2. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の推進について

- ・今後の取り組みの進め方等について意見交換を行った。

3. その他（連絡事項等）

- ・今後の会議開催予定および開催形態について確認を行った。

■ 配付資料

---

- ・ 議事次第／出席者名簿・配席図／WG規約・委員名簿
- ・ 資料1 これまでの経緯
- ・ 資料2 荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン 取り組みの推進について  
- 令和4年度活動結果・令和5年度活動計画案 -
- ・ 別添資料集（パンフレット等）

■出席者

構成	団 体 名 等	氏 名
学 識 経 験 者	埼玉大学 名誉教授	浅枝 隆 ◎
	(公財)埼玉県公園緑地協会 埼玉県こども動物自然公園 副園長	高木 嘉彦
	那須どうぶつ王国 教育・普及啓発プロデューサー	日橋 一昭
団 市 体 民	特定非営利活動法人 鴻巣こうのとりを育む会 代表理事	伊藤 铸義
	特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク 理事	川島 秀男
関 係 自 治 体	鴻巣市 環境経済部 環境課 副参事	小林 弘樹
	桶川市 環境経済部 環境対策推進課 係長	荒井 崇志
	北本市 市民経済部 環境課 課長	赤塚 浩二
	吉見町 環境課 係長	笛木 学
行 政 関 係 関	埼玉県 環境部 みどり自然課 主事	渡邊 真木
	埼玉県 農林部 農村整備課 主事	川鍋 将司
	埼玉県 環境部 環境科学国際センター 研究推進室 副室長	三輪 誠
※	関東地方整備局 河川部 河川環境課 地域連携係長	橋本 真孝
事 務 局	荒川上流河川事務所 河川環境課長	野口 典孝
	荒川上流河川事務所 河川環境課 河川環境係長	新保 美奈子

◎座長 / ※オブザーバー

学識経験者・民間団体 氏名五十音順

1. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の進捗について

(1) これまでの経緯等の確認

○ 事務局

【資料1】これまでの経緯について説明

→意見なし。

(2) 令和4年度協議会活動結果の報告

○ 事務局

【資料2】荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン 取り組みの推進についてのうち、令和4年度の活動結果（生物の生息場環境保全に関するプラン）について報告。

○ 浅枝座長

飼育している動物を捨ててしまうケースがあり、アライグマなどはそうして増えたものと思うが、そうした啓発は作成した広報資料に載っているだろうか。

○ 事務局

飼育した動物は最後まで飼うといったことについて広報資料は現時点で作成していないが、外来種問題の啓発パンフレットにおいて「特定外来生物などを持ち出さないこと。また、飼育動物や園芸種などを捨てない・広げない」といった注意喚起の内容を掲載している。

○ 浅枝座長

特定外来生物の問題ももちろん大切だが、飼育した動物は最後まで飼うという意識を強めていくことがこれから必要になると思う。そうした観点を広報活動に取り込んでいくことはいかがだろうか。

○ 事務局

本アクションプランの取り組みとしては、野生生物を主な対象としており、ペット動物を含めていくことに違和感はないだろうか。

○ 高木委員

ペット動物のなかで、エコネットの取り組みに関連するものとして最も気になるのはメダカ類である。品種改良されたメダカがたくさん流通しているが、それらが野外に放棄されると、在来のメダカ類が追いやられたり、交雑してしまったりという問題が考えられる。

エコネットの取り組みは、主に水辺環境に関する問題が対象であると感じており、

メダカ類の問題や、国外外来種だけでなく国内外来種にも課題があるということをパンフレット等に入れられるとよいと思う。

#### ○ 浅枝座長

外来種の影響はエコネットのなかでも非常に重要な課題であり、さまざまなかたちで広報資料に入れ込むのはいかがか。メダカ類の問題は大人も知らない場合がある。そうした問題点をうまく啓発していくのもエコネットの活動として重要だと思う。

#### ○ 高木委員

例えば合同生きもの調査で確認されたタイリクバラタナゴについて解説する際、日本産のタナゴ類が減少しているという流れで問題提起していくなどするとわかりやすいのではないか。

#### ○ 日橋委員

身近な環境を守るため、ペットに関する啓発はやっていくべきだと思う。すべての根本に関わることだと感じる。

#### ○ 事務局

来年度も生きもの調査体験会の開催を予定している。野生のミナミメダカを観察できれば、改良品種との違いなどから、遺伝子の多様性について解説できるかと思う。そうした点も含め、来年度の調査体験会などの進め方を検討させていただければと思う。

#### ○ 事務局

【資料2】荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン 取り組みの推進についてのうち、令和4年度の活動結果（地域振興・経済活性化に関するプラン）について解説。

#### ○ 伊藤委員

来年度、鴻巣市の中学1年生300人程度を対象として、環境調査やWEBも含めた教育・学習に関する活動を実施したいと考えている。具体的な内容は未定だが、学校関係者と相談しながら進めていく予定であり、情報提供する。

#### ○ 吉見町

プラン⑥「関係者間のネットワーク支援」の取り組み評価軸のうち「関係者間の連携・交流」回数について、今年度は0回となっている。吉見町で行ったジャンボタニシ駆除イベントやパネル展示など、本協議会に協力いただいているが、これは交流のうちに含まれないのか。

#### ○ 事務局

関係者間のネットワークをつくるということで、交流会の開催をイメージしてとりまとめていた。ご指摘の点を踏まえ、どこまでを「交流の機会」と捉えるのかについて、今後の検討課題としていきたい。

#### ○ 吉見町

2023年5月3日に「よしみ環境フェア」を開催予定である。協議会だけでなく鴻巣市やその他自治体、町内企業や団体などにもご協力いただきながら地球温暖化やゼロカーボンといったキーワードを踏まえ幅広い分野について子どもたちに知ってもらいイベントにできればと考えている。広報資料などを設置していただくだけでも、地域振興・観光振興のひとつになると思うので、交流回数としてカウントしてもよいのではないかと思った。

#### ○ 事務局

チラシ配布を交流としてカウントするかは難しいところかと思うが、地域関係者の皆様が、そうしたイベントと一緒に活動された、ということをして「交流」としてカウントするのもよいかと思う。

#### ○ 浅枝座長

広く捉えていただいているのではないかと。うまく連絡を取って連携しながら取り組みを進めていただけるとよい。

#### ○ 川島委員

交流として、荒川流域ネットワークでも、入間川や高麗川・都幾川などそれぞれの場所でご家族など参加者を案内し、生きものに詳しい講師の方に解説してもらい調査体験会を実施している。本協議会の対象エリア周辺の川でも実施できればと思っている。

#### ○ 浅枝座長

自然環境に関する話題に限定されているように感じるが、それだけでなく、歴史・文化に関するものも含めていけるとよい。生物調査・自然観察では子どもが対象になることが多いが、歴史・文化であれば大人も対象になる。エコネットの「エコロジー」という部分をもっと広く捉えていくとよい。

#### ○ 事務局

そうした意味でも荒川流域エコネットとして、地域振興や経済活性化に寄与するプランとしてエコツアーの推進支援等を検討しているところである。多くの方々がこの活動に関わり興味を持っていただければと思うので、多角的な方面から検討していくことも課題と考える。

○ 浅枝座長

地域活性化がターゲットとなっているため、自然環境に直接には関係しないような活動でもよいのではないだろうか。

## 2. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の推進について

### (1) 今後の取り組みの進め方について

○ 事務局

【資料2】荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン 取り組みの推進について  
のうち、来年度の取り組み計画（案）について説明。

○ 浅枝座長

コウノトリは飛来してもらいたい、歓迎するという姿勢であるが、サギ類についてはどうだろうか。鴻巣市付近にサギ山が合ったかと思うが。

○ 川島委員

3年ほど前まで、吹上・元荒川の竹林付近にサギ山のようなものがあつたが、現在は伐採されたためかサギ類はみられなくなったようである。

サギ類は水辺に集まってくるが、コウノトリも同じような生物をエサとしているため、サギ類がすめるということも大切だと思っている。

○ 浅枝座長

コウノトリだけでなくサギ類や、鳥類に限らず、その他の生物についても取り上げていくとよいのではないか。

サギ類でもアオサギなどは大きく見栄えがある。コウノトリは数が限られるが、サギ類であればたくさんみられる。

○ 伊藤委員

無農薬の冬水田んぼにもサギ類が飛来しているが、そこはコハクチョウも飛来する場所である。そうした場所にコウノトリも訪れるようになれば、たいへん賑やかになるだろうと期待している。

○ 川島委員

サギ類とコウノトリは同じようなエサ生物を食べており、サギ類が集まってくるような場所でないとコウノトリも生きていけないと思う。ぜひその他の種も対象とした観察会を開催するなどして取り組みを広めていければよいと思う。

## ○ 伊藤委員

先程お話した中学 1 年生を対象とした教育学習について、生物に関するパンフレットなどがあれば配布して生物のことを知ってもらいたいので、ご紹介いただきたい。

## ○ 浅枝座長

1 年以上日本にいる海外から来た留学生に「近くで何か見てきたか」と尋ねる機会があったが、「知らない。どこに何があるかわからない」と言っていたことがある。

海外の人に、「この地域に良いところがたくさんある」ということを伝えるためにはやはり WEB 活用がいいのではないかと思う。ただし英語対応でないといけない。河川事務所などが中心となってやっていただければいいのだがいかがだろうか。

例えば個人的な料理店だとしても、紹介する WEB ページを作成し、検索時にヒットすれば海外からの観光客も来てくれる。このネットワークで一緒に作成してもよいし、個別でもうまくやれば効果はあろうかと思う。ハードルは高いかもしれないが、連携・協力して考えていけるとよい。

## ○ 高木委員

そうした「誰でも使える・誰でも知ることができる」という点を考えると、WEB であっても携帯で使えるような形がいい。近年、パソコンよりも携帯を使う機会が多いため、携帯向けに開発してほしい。

広報系の取り組みも携帯利用を視野に入れて作成すれば、さらに広がりやすいと思われる。

## ○ 浅枝座長

海外では圧倒的に携帯利用が進んでいるため、そうできるとよい。国内向けでも、我々のような世代はまだパソコンで WEB を見たりするが、特に若い人は携帯を利用する。

## ○ 事務局

エコツアーの推進支援として Google マイマップで流域マップを作成をしているが、Google マップはデバイスを選ばずパソコンでもスマホでも閲覧できる。

ただし、事務局をやっている荒川上流河川事務所はあくまで河川管理者であり、流域の楽しい情報などは実はあまりわかっていないところがある。こうした情報こそ、地元の自治体さんなどにご紹介いただければ掲載することは事務局でも可能かと思われる。

エコツアーの推進支援として、Google マイマップを使用した流域マップの一般公開を進めていきたいと考えている。掲載する情報を充実させることで「このマップいいんじゃない」と地域の皆さんに思ってもらえるようなマップにできればと思う。

海外からの旅行者向けに「この地域に行けば東京から近いところでもこうしたものが見られる」という情報を、現在検討中のマップからお伝えできるかどうかという点

にはまだ疑問はあるので、今後、こういった情報を格納していけばよいのかといったこと、また、その他の SNS ツールの活用なども含め、検討していければと思っている。

#### ○ 浅枝座長

ぜひよろしくお願ひしたい。特にこうした話は各自治体の商工会青年部といったところに相談すればそこでもそういうことを考えている方がいらっしゃるかもしれない。そうしたところとうまく連携して進められないかと思う。

#### ○ 事務局

商工会が作成された観光マップなどは各自治体からご提供いただいているところであり、そちらの活用などについても今後検討していきたい。

#### ○ 高木委員

広報について、情報を掲載するのは参加している 5 自治体がメインだとは思いますが、近隣地区、例えば上尾市の上尾丸山公園では環境系イベントを行っていたり、大池でかいぼりを実施していたりする。そうした情報についても掲載してよいのではないか。

#### ○ 事務局

本協議会は、3 市 2 町を基本として始めたものであるが、荒川流域と頭についており少しずつ広げていきたいとは思っているところである。

現在の状況としては「3 市 2 町による協力でのアクションプラン推進」をメインに考えている。近隣自治体の情報の載せ方については、広報という形でどのように取り込んでいけるかは検討課題とさせていただければと思う。

#### ○ 高木委員

情報を探す人間としては、マスが大きければ多いほど効果も多くなるので、有効性が高まる。メンバーとなる市町がメインだとは思いますが、より広く県内で活動している環境系・観光系団体があり、そうした団体の活動と関連していれば、情報として取り上げていくのもありかと思う。

#### ○ 事務局

プラン⑥「関係者間のネットワーク支援」などで環境系団体の情報収集を行っており、WEB 上での広報についても考えているところではあるが、現状としてはセキュリティの関係などの課題があり、新たにホームページなどを開設するのが難しいなかで、荒川上流河川事務所のホームページから広報発信している状況である。

例えば、荒川上流河川事務所はホームページのほかにツイッターなどの SNS アカウントを持っており、そちらで荒川流域の環境団体の取り組みなどを情報共有として投稿することは、所内の運用規定を確認しないことにははっきりとは言えないが、可能かもしれない。流域の自然環境に関する取り組みとなどを相互リンクやお互いに情報

発信するなど、広報ネットワークが構築されていくかと思う。現在はまだ荒川上流河川事務所内のページのみであるが、今後の取り組みの一つとして検討させていただければと思う。

#### ○ 高木委員

それでよいかと思う。情報もネットワークが広ければ広いほどヒットしやすくなるだろう。

#### ○ 浅枝座長

インターネットなどで、写真から動物の種名が検索できるツールがあるが、そうしたものを河川事務所で作ることはできないとしても、作成できる環境団体などうまく連携できれば、さまざまな情報が取得できると思われる。

歴史・文化についても「この場所にはこうした歴史があった」という情報も、その地域をよくご存じの方ならすぐまとめられるであろう。

さまざまな情報を集め、インターネットを通じてそれらにアクセスできるという形でネットワークになっていけば、利用価値も非常に上がってくるのではないか。

#### ○ 伊藤委員

上尾丸山公園にはしばしば訪れるが、さまざまな団体が活動されている光景が見られる。

浅枝先生がおっしゃった留学生の話に関連し、あまりどこも行ったことがない・知らないということであれば、ゴミ拾いや生物調査などのイベントを行い、その後に地元のグルメを楽しむといった企画を立てれば、人びとが集まってくる、楽しく、印象的なものにできるのではないか。

#### ○ 浅枝座長

留学生やその家族らがサークルを作っていることもあり、そうしたサークルにうまく参加していただくことができれば、参加者を増やすことができるだろう。

例えば、料理教室をやろうということで、インドから来た留学生にカレーの作り方を教えてもらった機会があった。そのような国際的なネットワークをつくる場にも持っていけるのかと思う。

### 3. その他（連絡事項等）

#### （1）今後の予定について

今後の協議会の取り組みについて会議日程等について確認した。

#### （2）会議の開催形式について

会議の開催形式について、今後も引き続き WEB を活用し会議を開催していくことを確認した。

(3) その他

○ 日橋委員

今後、エコネットの取り組みが盛り上がっていくには、コウノトリの繁殖・放鳥がひとつのカギであろうかと思う。コウノトリのペアに期待したい。

○ 伊藤委員

鴻巣市のコウノトリのペアは、毛づくろいをしあうなど、とても仲が良さそうなので期待しているところである。

以 上